

1. 本報告は平面ヒズミ直交異方性弾性地盤の厳密な応力公式を導き、応力の伝播性に関する係数を示したものである。著者は弾性理論を用いて一般の地盤内題が十分に解析されるとは考えていない。しかし、弾性公式は地盤内応力の伝播性を定性的にとりあつかう上で有用な道具であるとする。最近工の異方性の問題が注目されるようになった。異方性には、Inherent (もって生まれた) な異方性と Induced (ヒズミにより作られる) とされる異方性がある。本文は Inherent な異方性を対象にしている。

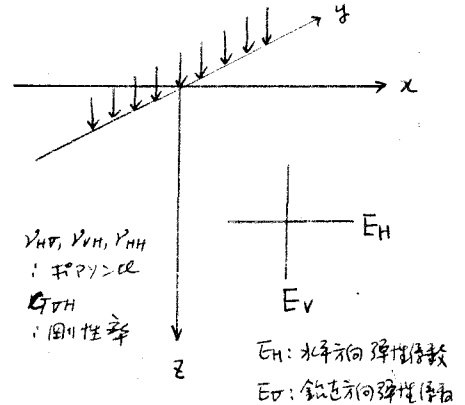
2. 応力公式の誘導

応力公式を導くための条件

- 1) 鉛直単位線荷重
- 2) 平面ヒズミ
- 3) 半無限直交異方性弾性体
- 4) 異方性の主軸と座標軸との一致

解は次ページの付録に記した。結果を引用すると

$$(\sigma_z, \sigma_x, \tau_{xz}) = \frac{q_1 q_2 (q_1 + q_2) (z^2, x^2, xz)}{\pi \{ (q_1^2 + z^2) \{ (q_2^2 + x^2) + z^2 \} \}} \quad (1)$$



3. 荷重の伝播性を示す係数

荷重作用線下 ($x=0$) の鉛直応力 σ_z は $\sigma_z|_{x=0} = \frac{1}{\pi} \cdot \frac{q_1 + q_2}{q_1 q_2} \cdot \frac{1}{z} \quad (2)$ となる。 $\sigma_z|_{x=0}$ の分母、集中性は係数 $A = (q_1 + q_2)/q_1 q_2$ の値によって定まる。右(左)に A を計算すれば

$$A = \sqrt{\left(\frac{E_V}{E_H} \right) \left\{ \frac{E_H}{G_{VH} (1 - \nu_{HV} \nu_{VH})} \cdot \frac{1}{1 - \nu_{HV} \nu_{VH}} - \frac{2 \nu_{HV} (1 + \nu_{HH})}{1 - \nu_{HV} \nu_{VH}} \right\} + 2 \sqrt{\frac{E_V (1 - \nu_{HH}^2)}{E_H (1 - \nu_{HV} \nu_{VH})}} \quad (3)$$

である。等方性の場合には、 $A = 2$ である。 $E_V/E_H > 1$ であるような傾向があるとき荷重は集中し、 $E_V/E_H < 1$ であるような傾向があるとき荷重は分散する。前者は通常の砂の場合、後者は過圧密粘土の場合の傾向と説明される。

4. 荷重による水平方向応力と鉛直方向応力との比

ここで、次のような応力を計算する。

いま、 $\bar{\sigma}_x$ と $\bar{\sigma}_z$ の比を K_0^* とすると

K_0^* は水平方向と鉛直方向に対する荷重の伝播性の比と

表わす一つの指標でありと考える。この K_0^* は

静止土圧係数に対する量である。等方性の場合 $K_0^* = 1$ である。

$E_V/E_H > 1$ であると K_0^* は 1 より小さくなる傾向を示し、 $E_V/E_H < 1$ であると K_0^* は 1 より大きくなる傾向を示す。経験的に知られる $E_V/E_H > 1$ になりやすくまた静止土圧係数 (K_0) も $K_0 < 1$ である傾向がある。過圧密粘土の場合には $E_V/E_H < 1$ 、 $K_0 > 1$ になる傾向にある。以上、弾性公式を用いて議論すればこのような土の性質をセキとも定性的には説明できる。

$$\bar{\sigma}_x = \gamma \int_0^h \int_{-\infty}^{\infty} \sigma_x dx dz, \quad \bar{\sigma}_z = \gamma \int_0^h \int_{-\infty}^{\infty} \sigma_z dx dz \quad (4), (5)$$

$$K_0^* = \frac{\bar{\sigma}_x}{\bar{\sigma}_z} = \sqrt{\frac{E_H}{E_V}} \cdot \sqrt{\frac{1 - \nu_{HV} \nu_{VH}}{1 - \nu_{HH}^2}} \quad (6)$$

付録 応力公式の導出

応力成分の表示式

$$\varepsilon_x = \frac{\sigma_x}{E_H} - \nu_{HH} \frac{\sigma_y}{E_H} - \nu_{VH} \frac{\sigma_z}{E_V}$$

$$\varepsilon_y = -\nu_{HH} \frac{\sigma_x}{E_H} + \frac{\sigma_y}{E_H} - \nu_{VH} \frac{\sigma_z}{E_V}$$

$$\varepsilon_z = -\nu_{HV} \frac{\sigma_x}{E_H} - \nu_{HV} \frac{\sigma_y}{E_H} + \frac{\sigma_z}{E_V}$$

$$\gamma_{xy} = 2(1+\nu_{HH}) \tau_{zx} / E_H$$

$$\gamma_{yz} = \tau_{yz} / G_{VH}$$

$$\gamma_{zx} = \tau_{zx} / G_{VH}$$

応力成分の表示式 (平面ひずり, $\varepsilon_y = 0$)

$$\varepsilon_x = \frac{\sigma_x}{E_H} (1 - \nu_{HH}^2) - \frac{\sigma_z}{E_V} (1 + \nu_{HH}) \nu_{VH}$$

$$\varepsilon_z = \frac{\sigma_z}{E_V} (1 - \nu_{VH} \nu_{HV}) - \frac{\sigma_x}{E_H} (1 + \nu_{HH}) \nu_{HV}$$

$$\gamma_{zx} = \tau_{zx} / G_{VH}$$

応力関数 F

$$\sigma_x = \frac{\partial^2 F}{\partial z^2}, \quad \sigma_z = \frac{\partial^2 F}{\partial x^2}, \quad \tau_{zx} = -\frac{\partial^2 F}{\partial x \partial z}$$

ひずり適合条件式

$$\frac{1}{E_V} (1 - \nu_{VH} \nu_{HV}) \frac{\partial^4 F}{\partial x^4} + \left(\frac{1}{G_{VH}} - \left(\frac{\nu_{HV}}{E_H} + \frac{\nu_{VH}}{E_V} \right) (1 + \nu_{HH}) \right) \frac{\partial^4 F}{\partial x^2 \partial z^2} + \frac{1}{E_H} (1 - \nu_{HH}^2) \frac{\partial^4 F}{\partial z^4} = 0$$

$$F = \int_0^{\infty} f(z, m) \cos mx \, dx$$

$$a \frac{d^4 f}{dz^4} - b \frac{d^2 f}{dz^2} + c = 0$$

$$f = B_1 e^{-\zeta_1 m z} + B_2 e^{-\zeta_2 m z}, \quad \zeta_1, \zeta_2 > 0$$

$$a = (1 - \nu_{HH}^2) / E_H$$

$$b = \frac{1}{G_{VH}} - (1 + \nu_{HH}) \left(\frac{\nu_{HV}}{E_H} + \frac{\nu_{VH}}{E_V} \right)$$

$$c = (1 - \nu_{HV} \nu_{VH}) / E_V$$

応力

$$\sigma_z = \int_0^{\infty} (B_1 e^{-\zeta_1 m z} + B_2 e^{-\zeta_2 m z}) m^2 \cos mx \, dm$$

$$\sigma_x = \int_0^{\infty} (B_1 \zeta_1^2 e^{-\zeta_1 m z} + B_2 \zeta_2^2 e^{-\zeta_2 m z}) m^2 \cos mx \, dm$$

$$\tau_{zx} = -\int_0^{\infty} (B_1 \zeta_1 e^{-\zeta_1 m z} + B_2 \zeta_2 e^{-\zeta_2 m z}) m^2 \sin mx \, dm$$

境界条件

$$\sigma_z|_{z=0} = \frac{1}{\pi} \int_0^{\infty} \cos mx \, dm$$

$$\tau_{zx}|_{z=0} = 0$$

$$\therefore -(B_1 + B_2) m^2 = 1/\pi$$

$$\zeta_1 B_1 + \zeta_2 B_2 = 0$$

応力係数

$$(\sigma_z, \sigma_x, \tau_{zx}) = \frac{\zeta_1 \zeta_2 (\zeta_1 + \zeta_2)}{\pi} \frac{(z^2, x^2, xz) z}{\{(\zeta_1 z)^2 + x^2\} \{(\zeta_2 z)^2 + x^2\}}$$

根と係数の関係

$$\zeta_1 \zeta_2 = \sqrt{c/a}$$

$$\zeta_1 + \zeta_2 = \sqrt{\frac{b}{a} + 2\sqrt{\frac{c}{a}}}$$